

第100回すこやかネットワークに約130人が参加

7月16日(木)、第100回すこやかネットワークを松波総合病院・南館1階 MGHホールにて開催いたしました。今回は、「糖尿病と血管管理」というテーマで松波総合病院 山北宜由病院長に講演をして頂きました。糖尿病と高血圧の合併頻度や糖尿病だと血圧が高くなりやすいのかなど、細かな資料を交えた講演は、とても有意義なものとなりました。参加をされた内部・外部の医療関係者130名からもとても勉強になりましたと多くの反響を頂きました。

“すべての人々に安全な出産を”  
妊婦さんを応援するイベント

毎年5月5日は「国際助産師の日」として助産師の活動を祝い、この日から一か月程度、日本各地で助産師活動に関する催しが開催されます。当院でも6月30日に開催し“すべての人々に安全な出産を”をスローガンに妊婦の心と身体を癒す一日として、妊婦とその家族を対象にイベントを行いました。当院では、LDR(陣痛室・分娩室が一緒になっており、陣痛時の移動がなく分娩終了まで一つの部屋で過ごせることができる特別室)や沐浴、出産、助産師外来、母親学級などの展示し助産師の仕事風景を紹介。来場者にはアロマ体験としてハンドマッサージを行い、産後に行うアロママッサージを体験していただく場も提供し、ご来場者の方に喜んでいただきました。



第1回  
町民健康セミナーの開催ご案内

乳がんは早期発見・早期治療が重要です。是非この機会にがん検診の必要性や治療について健康セミナーで学び、乳がんから体を守りましょう。

「がん検診の受診率向上に向けて」  
～乳がんの視点から～

【日時】 2015年8月22日(土) 14:30～16:30  
【場所】 笠松中学校 屋内運動場  
【内容】

先着  
400名

特別講演 1

「乳がんのお話～乳腺外科の立場から～」  
松波総合病院 外科部長 花立 史香

特別講演 2

「乳房再建のお話～形成外科の立場から～」  
松波総合病院 形成外科部長 北澤 健

講演会のお知らせ

第101回  
すこやかネットワーク

【日時】 2015年9月30日(水) 19:00～  
【場所】 松波総合病院 南館1階 MGHホール  
【テーマ】 「運転と低血糖」  
【講師】 松波総合病院 副院長  
まつなみリサーチパーク所長・人間ドック  
健診センター長  
林 慎 先生

交通・駐車場のご案内



病院全体のベースアップを図り  
より安心される存在に

毎週のように開催されている多種多様なトレーニングコースを始め、患者様のQOLを維持・改善するための治療やリハビリなど、地域の皆様により安心していただける病院づくりに取り組んでいます。

実践的な知識や行動が身につくトレーニングコースを多数開催

急変症例を疑似体験し、実臨床へ活かせる知識や行動を身につけていただくべく、多種のトレーニングコースが毎週のように開催されています。岐阜県下では特に、心肺停止症例に対する活動基準になる一次救命処置(Basic Life Support:BLS)、二次救命処置(Immediate Cardiac Life Support:ICLS)、脳卒中症例に対する神経蘇生処置(Immediate Stroke Life Support:ISLS)、病院前外傷救護に関するJapan Prehospital Trauma Evaluation & Care (JPTEC)などが頻繁に開催されています。当院では平成24年4月より、上記コースのうちBLS、ICLS、ISLSについて、

コースに対する意識向上のための啓蒙活動や、資機材などの環境整備、インストラクターの育成を行ってまいりました。そもそも各コースの具体的な達成目標は、BLSでは質の高い胸骨圧迫や換気方法やAEDの使用について、ICLSではBLSに加えマニュアル除細動器の使い方や薬剤投与について、ISLSでは意識障害の評価(JCS・GCS)と神経学的評価(NIHSS)および脳卒中症例における呼吸循環動態の観察方法について、それぞれ学びます。現在までの“当院での開催回数”は、BLS開催回数は150回を超え、ICLSは7回、ISLSは1回となっております。こうしたトレーニングコースに全職員が

興味をもっていただき、出来る限り多くの方に受講いただくことで、病院全体のベースアップを図り、地域の皆様により安心いただける病院を目指しております。



救急医療センター長・  
脳神経外科副部長  
八十川 雄 図

【所属学会】	日本脳神経外科学会 日本脳神経外科コンgres	日本定位・機能神経外科学会 日本神経外傷学会	日本意識障害学会 日本救急医学会
【資格】	日本脳神経外科学会:専門医 日本DMAT隊員	AMAT隊員 日本救急医学会ICLS認定コースディレクター	

化学療法室 | Chemotherapy room

延命・根治・QOL改善が期待できる全身治療

化学療法は、抗がん剤を用いてがんを治療する事で、がん細胞の増殖を抑えたり、再発や転移を防いだりする効果があります。

がん治療には、手術療法・放射線療法・化学療法があり、これらはがん治療の3本柱と言われています。化学療法は、内服薬や点滴による治療で全身治療とも言われ、延命・根治・QOL(生活の質)改善などの効果が期待できる治療法です。

今回、クリニック化学療法室を改装後、電動ベッド、リクライニングソファ、アーム付テレビを完備し、部屋は南側の

窓が大きくなった事で、太陽の光が取り入れられる、明るさと温かみを感じられるようになりました。

また、新たにできたラウンジでは、今後、家族会やピアサポートの開催を考慮しており、より多くの患者様やご家族の支えになっていけたらと思っています。

今後は、がん性疼痛看護認定看護師、がん放射線看護認定看護師と共にチーム医療を実践し、来院される患者様の言葉や表情、コミュニケーションを通じて、不安や体調の変化などを感じ取り、患者様の心に寄り添いながら最大限のサポートをしていきたいと思ひます。



化学療法室の電動ベッドとリクライニングソファ

看護部  
がん化学療法看護  
認定看護師  
桂川 美幸



リハビリテーション技術室 | Rehabilitation technological room

QOLを維持するために必要な「がんのリハビリ」

がんのリハビリテーションは、患者様の生活機能と生活の質、能力の維持と向上を目的とし、今までと変わらない日常を取り戻すために、生活の質(QOL)の考えに基づいて行われます。がんのリハビリは、診断された時から行う事が可能で、障害予防や緩和、能力の回復を目的に状況に応じて行います。

闘病中は、抗がん剤治療や放射線治療などにより体の機能低下がおきること、さまざまな障害を抱える事になります。さらに、日常生活に支障をきたし、社会復帰が難しくなり、結果QOLの低下へと繋がってしまいます。そこで、QOLを低下させない為に欠かせないのが「がんのリハビリ」なのです。

通常のリハビリは、何かしらの問題が起きてからの開始になりますが、がんのリハビリは「予防リハビリ」といわれ、診断後、早い段階からリハビリを開始する事ができ、どのような病状や状態でもリハビリを受けることができます。「がんのリハビリ」では、患者様が自分らしく生きるためのサポートを行っておりますので、手術を受ける際には、手術による障害を予防する為にどのような対応ができるのか、ご家族様も一緒に是非とも一度ご相談ください。がん治療に伴う痛みや倦怠感で苦しんでいる方が見えたら、「がんのリハビリ」をおすすめします。「がんになったから仕方がない」とあきらめず、まずは主治医にご相談ください。



リハビリテーション科  
理学療法士  
山崎 康司



患者様ひとり一人にあったサポートをします

認定看護師 | Certified Nurse

放射線治療について  
もっと多くの方に知ってほしい

放射線治療は手術療法、抗がん剤治療と並び、がん治療の3本柱の一つです。しかし、日本では放射線治療を受けるがん患者様は30%程度と少ないのです。もっと多くの方に放射線治療について知ってもらいたいという思いから資格をとりました。

放射線と言うと被ばく・怖いといったイメージをする方が多くいらっしゃると思います。しかし、他のがん治療に比べ、高齢の方でも身体への影響が少なく、治療が受けられるというメリットもあります。患者様が毎日安心して治療を受けられるように全力でサポートさせていただきます。



がん放射線療法看護  
認定看護師  
藤木 里美

質の高い医療を支える認定看護師からのメッセージ

生命危機に直面する  
救急看護に求められるもの

当院は救急車を断らない方針で一次から時には三次救急まで受け入れ、軽傷から重症の患者様まで幅広い症状の方を対応しています。

救急看護は、生命危機に直面し、診断がついていない状況の患者様を対象とする事もあるため、検査・処置を円滑に進めるため、患者様の症状から予測性をもって準備し、医師の診察をサポートする事や、他部署との連携が求められます。

救急では、突然の事故や病気により、不安や恐怖など心の問題も受け止めていきたいです。



救急看護認定看護師  
細谷 和恵

脳卒中の後遺症による  
障害を少しでも軽くしたい

当院に入職した10年前、リハビリ病棟で多く脳卒中の患者様を担当させていただいてから、(障害を軽く出来ないか?)との思いや障害を持った患者様の身体面・認知面で関われる専門的な知識を持ちたいと思い取得をしました。

脳卒中は、首の頸動脈に狭窄、動脈硬化の方など生活習慣病の方が脳卒中になりやすいと言われています。一度なると再発率が高い病気なので、血圧コントロールなどの予防が大切です。検査や検査後の自分がどのようになるのか不安があると思います。何か不安や疑問を感じたらいつでもご相談してください。



脳卒中リハビリテーション看護  
認定看護師  
山田 周司

住み慣れた家でいつまでも  
笑って過ごしていただきたい

まつなみ訪問看護ステーションに入職し10年が経ち、今までに経験した事だけでなく、もう一度学び直し、文献などから理論と根拠のある看護を行いたいと思い取得しました。ご利用者の方に根拠に基づいた看護を行い、満足していただけるサービスを提供したいと思います。

今後も、住み慣れた家でいつまでも笑って過ごしていただけるように関わって行きたいと思ひます。



訪問看護認定看護師  
村松 美佐子